

燕三条の金属加工技術と融合し、 セラミック製品の可能性を広げる焼結加工技術

1936年木工業として創業。同社のつよみは現在は調理器具中心のプラスチック製品や刃物を組込んだ成型品を製造販売。金型設計から成形、加工組立、物流までの一貫生産体制とオリジナル商品の企画・開発力である。顧客からの高い評価のもと、高強度樹脂成型やファインセラミック成型によるキッチン用品を生産。一貫生産体制と充実した設備、長年培ったノウハウで、多様なニーズに柔軟に対応。ISO9001認証を取得し地域未来牽引企業となっている。

●所在地 新潟県三条市下保内401-17

●設立 1951年

●電話/FAX 0256-38-2531/0256-38-3666

●資本金 2,500万円

●URL <http://www.kawasaki-plastics.jp/>

●従業員数 75名

●代表者 代表取締役社長 川崎 雄輔



セラミック製品の焼結加工技術の確立

高強度樹脂成型やファインセラミック成型によるキッチン用品製造会社として、金属刃物やセラミックを使った野菜調理器、卓上調理器など大手企業のOEMを供給元とするビジネスモデルを展開している。セラミックは硬度が高く加工工程では、ダイヤモンドカッターを使うなどコストが嵩むことが難点であったが、同社は材料を専用の型に流し込んで焼結する技術を確認し、加工費用を従来の10分の1に抑えることを実現している。



セラミックのキッチン用品

燕三条の金属加工技術との融合で広がる可能性

新潟県燕三条地域は「金物の町」として知られ、古くから伝わる伝統を代々受け継いできた職人による金属加工製品は世界の人々をも魅了している。同社では燕三条の金属加工技術を融合した製品(金属製・セラミック製の刃物を組み込んだ調理器具)を数多く世に送り出し、目的に合った素材を使い、融合させることで単独では得られない付加価値を生み出している。2020年4月より既存プラスチック製品の一部を生分解性素材に段階的に切替え、自然環境を配慮した取組に着手する予定である。



金属加工技術を融合した商品

円滑な事業承継を経て、会社の活性化を図る

2016年創業80周年を機に事業承継を行った。強力なリーダーシップを発揮した前社長の川崎会長と子息の川崎社長とは「良いものは受け継ぎながら、新しいことにも挑戦したい。武器である素材の複合化をキーワードに、新たな分野に参入したい」という同社の思いを共有し、意思の疎通と連携が取れている。企画開発・生産管理・営業における万全の組織体制が構築され、社員一丸となって、ものづくりの技術力の向上と販路開拓に注力している。雇用創出にも積極的に取組み、毎年5名以上を地元から新規採用している。設備投資の際には補助金申請にチャレンジしている。



笑顔でゼロからのモノづくり